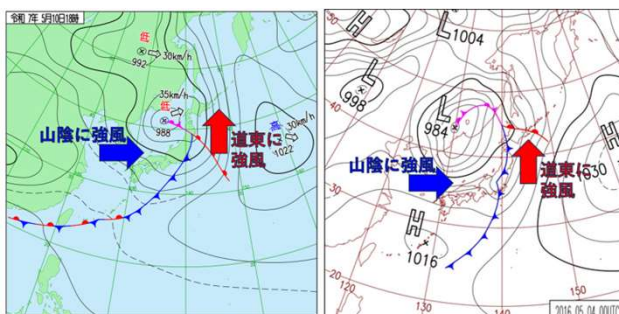
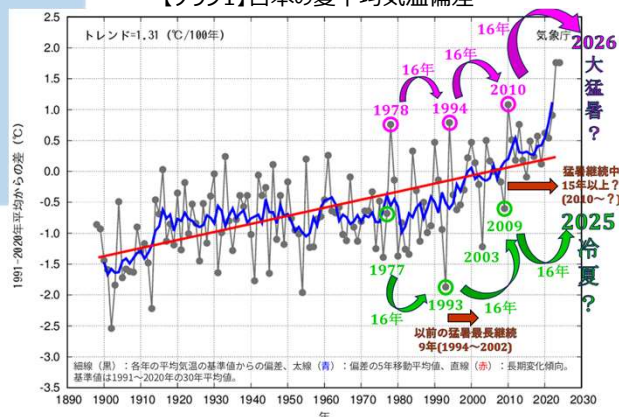


2025年の夏。今年もまた猛暑？それとも冷夏？

VOL.15【2025.6】

2023年と2024年の日本の夏（6～8月）は、平均気温が平年差+1.76℃と観測史上最高の猛暑となりました。2025年もまた同じように猛暑になるのでしょうか？気象庁の長期予報では平年より高温になる可能性が高いとされており、現時点（5月末）の数値予報モデルでもその傾向が示されています。一方で、100年を超える気象観測統計を持つ日本列島。16年などの統計的周期性論から、一部では「必ずしも猛暑になるとは限らない」との見方もあるようです。

【グラフ1】日本の夏平均気温偏差



【図1】2025年5月10日と2016年5月4日の天気図

【表1】POTEKA全国高温ランキング

【2025.5.30】				【2019.5.26】			
順位	都道府県	地点	℃	順位	都道府県	地点	℃
1	北海道	鷹栖町	29.9	1	北海道	清里町江南	37.8
2	北海道	士幌町農協	28.5	2	北海道	士幌町役場	37.6
3	北海道	士幌町下居辺	28.4	3	福島県	福島テレビ	37.3
4	北海道	音更町豊田	28.2	4	茨城県	守谷市高野小	37.3
5	北海道	音更町昭和	28.0	5	茨城県	石岡市恋瀬小	37.2

POTEKAが注目した二つの夏を取り上げ、防災の観点からその特徴を振り返ってみたいと思います。

①**2016年夏**: 平年差+0.49℃。北海道3、東北1の計4台風が北日本に上陸し甚大な被害。台風7号は極端冷夏1993年台風11号以来の北海道直接上陸。また東北地方太平洋側に統計史上初上陸した台風10号が象徴的。

②**2019年夏**: 平年差+0.12℃。当時はまだ非崩壊の統計論「猛暑は10年以上続かない」の通り、7月上旬中旬は寒冷で1993年や2003年冷夏のような米不足も懸念された。しかし7月下旬以降は高温化し猛暑に。「冷夏になり損ねた夏」とも言われる。秋には令和元年房総半島台風（15号）や東日本台風（19号）が来襲し激甚災害に。

両年とも冷夏ではありませんでしたが、台風による甚大な被害が発生しました。防災への備えだけは、常に怠らないようにしましょう。

グラフ1は日本の夏の平均気温偏差です。2025年夏が猛暑か冷夏かは分かりませんが、約10年のPOTEKAの観測統計とアメダスを組み合わせて、今夏に訪れるかもしれない気象現象を分析してみましょう。直近の5月にPOTEKAが観測した気象現象について、過去の5月にも同様の現象があったかを探索します。もし存在すれば、今夏がその過去の夏に似た気象になるかも！という、ちょっとした遊びのような、しかし機械統計学習の基礎の当付けのような試みです。

①**2025年5月10日**、鳥取県南部町（エンガーノ富有:16.7 m/s）や北海道斜里町（峰浜:13.2 m/s）のPOTEKAで、5月の統計史上1位となる最大瞬間風速を観測。過去の5月に同様の現象があったかを調べたところ、POTEKAはまだ存在していませんでしたが、**2016年5月4日**に島根県松江アメダスと北海道斜里アメダスで、それぞれ5月統計史上1位の34.6 m/sと28.5 m/sの最大瞬間風速を記録していました（図1）。

②**2025年5月30日**、北海道は昇温し当日のPOTEKA全国高温ランキングでトップ5をすべて北海道が占める結果となりました。過去5月に同様の現象が無かったか調べたところ、**2019年5月26日**に、全国ランキングを独占するには至らなかったものの、清里町江南で37.8℃の極端な高温を観測し、北海道が全国1位を記録した例がありました（表1）

今年の夏が猛暑になるのか冷夏になるのか、あるいは2016年や2019年のような特徴を持つのかは予測は難しいところですが、